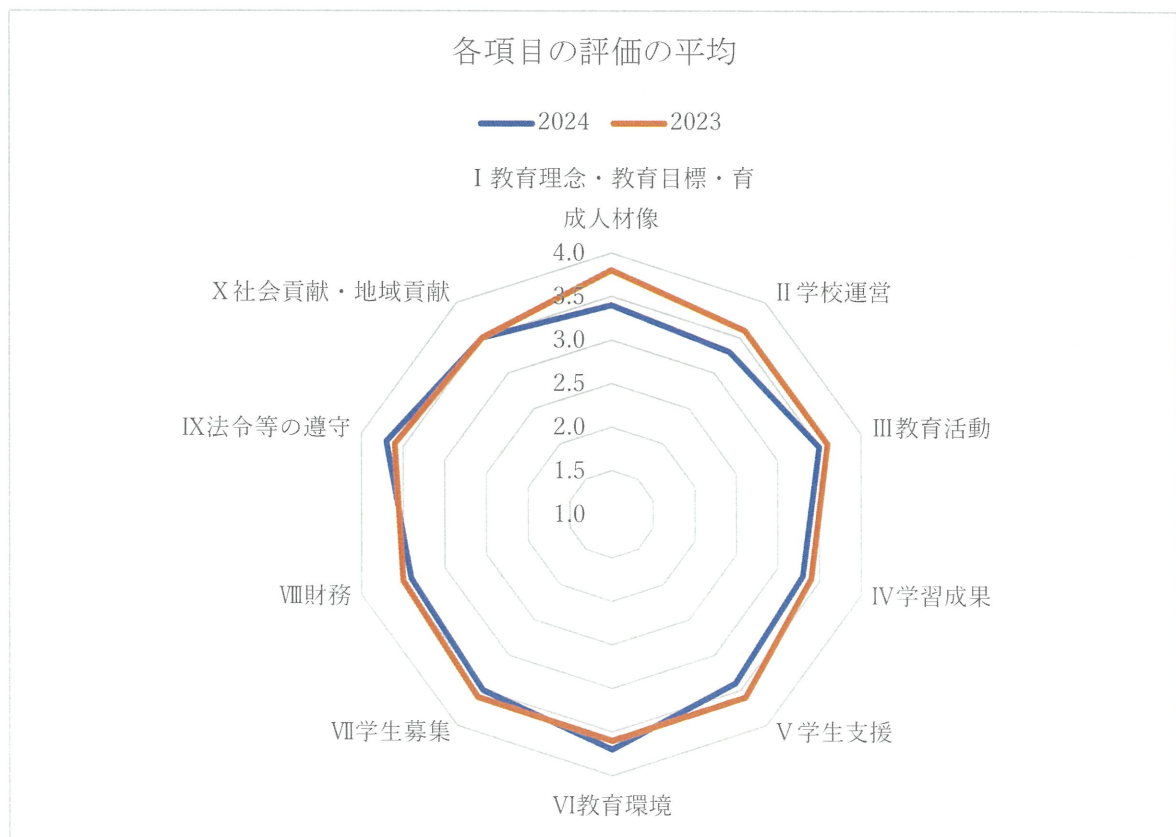


1. 自己点検・自己評価の項目ごとの得点

2025 年 2 月 7 日～14 日に教職員へのアンケートを実施した。教職員 13 名 回収率 100%。

評価基準は、「4:適切」「3:ほぼ適切」「2:やや不適切」「1:不適切」とした。

評価項目	平均点	
	2024	2023
I 教育理念・教育目標・育成人材像	3.4	3.8
II 学校運営	3.3	3.6
III 教育活動	3.5	3.6
IV 学習成果	3.3	3.4
V 学生支援	3.4	3.6
VI 教育環境	3.7	3.6
VII 学生募集	3.5	3.6
VIII 財務	3.4	3.5
IX 法令等の遵守	3.7	3.6
X 社会貢献・地域貢献	3.5	3.5



評価項目	平均点	
	2024	2023
I 教育理念・教育目標・育成人材像	3.4	3.8
1) 教育理念・教育目的・期待される卒業生像は定められているか	3.8	4.0
2) 学校における看護教育の特色は明確か	3.6	3.9
3) 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.1	3.8
4) 教育目標・期待される卒業生像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	2.9	3.3
5) 教育理念、教育目的、教育目標は定期的に見直されているか	3.5	3.8
II 学校運営	3.3	3.6
1) 教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.4	3.7
2) 学校運営会議、職員会議、教員会議は定期的開催している	3.8	4.0
3) 教務および事務の組織を整備し、業務分掌は明確になっているか	3.4	3.8
4) 就業規則等は整備されているか	3.2	3.4
5) 法令等を遵守し適切に運営しているか	3.5	3.7
6) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.9	3.1
III 教育活動	3.5	3.6
1) 教育理念等が反映された教育課程の編成がされているか	3.4	3.8
2) 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3.8	3.7
3) カリキュラムは体系的に編成されているか	3.8	3.7
4) 実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか。	3.7	3.5
5) 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.7	3.6
6) 学校関係者からの評価を取り入れているか	3.8	3.7
7) 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.7	3.6
8) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.5	3.5
9) 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.0	3.4
10) 関連分野の新たな知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための体制はあるか	3.3	3.5
11) 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.4	3.6
IV 学習成果	3.3	3.4
1) 卒業時の到達状況を分析しているか	3.8	3.7
2) 資格取得率(国家試験)の向上に向けた取り組みが図られているか	3.7	3.7
3) 退学率の低減に向けた取り組みが図られているか	3.2	3.3
4) 卒業生の活躍や評価を把握しているか	2.8	3.1
5) 卒業後のキャリア形成を把握し学校の教育活動に活用されているか	3.1	3.3
V 学生支援	3.4	3.6
1) 就職・進学に関する支援体制は整備されているか	3.4	3.7
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	3.5	3.5

3) 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.3	3.3
4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.5	3.7
5) 自治会活動に対する支援体制は整備されているか	3.8	3.7
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	3.2	3.5
7) 保護者と適切に連携しているか	3.2	3.5
8) 卒業生への支援体制はあるか	3.3	3.6
VI 教育環境	3.7	3.6
1) 施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか	3.7	3.5
2) 防災に対する体制は整備されているか	3.7	3.7
VII 学生募集	3.5	3.6
1) 学生募集活動は、適正に行われているか	3.5	3.7
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5	3.3
3) 学納金は妥当なものとなっているか	3.5	3.7
VIII 財務	3.4	3.5
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.9	3.1
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.4	3.5
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	3.7	3.7
4) 財務情報公開の体制整備はできているか	3.5	3.6
IX 法令等の遵守	3.7	3.6
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9	3.7
2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.6	3.7
3) 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.6	3.6
4) 自己評価結果を公開しているか	3.7	3.3
X 社会貢献・地域貢献	3.5	3.5
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.8	3.6
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.8	3.7
3) 地域に対する公開講座等の受託を実施しているか	3.0	3.2

2. 自己点検・自己評価の結果の考察

I 教育理念・教育目標・育成人材像 平均 3.4

この項目に対する評価の平均は 2.9～3.8 であった。教育目標、期待される卒業生像、特色、将来構想などが学生および保護者等に十分周知されているかについての評価の平均は 2.9 であり、適切な評価を得られていない状況である。社会のニーズへの対応や保護者との連携が課題として指摘されている。社会のニーズに対応する意図を明確にし、必要な情報の収集に努める。また、保護者に対しては学校説明会や保護者会などで周知を行っているが、今後はさらに理解を深めていくことに努める。

II 学校運営 平均 3.3

この項目に対する評価の平均は 2.9～3.8 であった。教務および事務の組織整備と業務分掌の明確

化については平均 3.4、就業規則等の整備状況については 3.2、情報システム化等による業務効率化については 2.9 であり、数名からの評価が低い状況となっている。

就業規則が容易に閲覧できる環境を整えることや、業務マニュアルは業務の効率化に寄与するため、適宜改善を検討していく。また、教員会議の開催頻度を検討し効率的な会議運営を心がけていく。

III 教育活動 平均 3.5

この項目に対する評価の平均は 3.0～3.8 であった。人材育成目標に向けた授業を行う上で必要な要件を備えた教員の確保や、職員の能力開発のための研修等について、数名からの評価が低かった。

本年度は、新カリキュラムが 3 年目を迎えたため、教員全員で新カリキュラムの評価を行ったが、評価に多くの時間がかかった。また、初めて OSCE(客観的臨床能力試験)を実施したため、準備や評価に多くの時間を費やした。学生にとっては学習の成果が見られる一方で、課題もあるため、次年度は今年度の評価結果を活かした実施を目指すことで、負担等の軽減につながることを期待される。さらに、対話型 AI 活用法に関する外部研修会に参加し、ICT 活用スキルを習得することで、教育活動に活かせるようにしたい。学会や研修会には教員全員が積極的に参加しているため、次年度も参加を促し、会議での報告を通して学びを共有していきたい。

IV 学習成果 平均 3.3

この項目に対する評価の平均は 3.1～3.8 であった。退学率低減への取り組みや卒業生の活躍や評価の把握などの項目では、「やや不適切」という意見もあった。学習面以外の理由による退学者への支援や国家試験に向けた学習モチベーションの向上、国試合格率向上のための取り組み、卒業後の追跡調査の実施が課題としてあげられた。昨年度の退学率は 15%であったが、今年度は 5%で、退学理由の中には、入学後に看護師という仕事が自分に合わないと感じる学生もいた。

取り組みとしては、入学前から業者による入学前教育を行い、入学後は学習習慣を身につけるための朝学習や補講、学力低迷者を対象にした特別補講、チューター会や定期的な模擬試験による学力評価を行っている。学生により学力差があるため、個別面談を通して学生の弱点や課題の明確化、学生が主体的に学習計画を立てられるように、アドバイスや情報を提供するなど国家試験合格に向けた支援を行っていく。

卒業後のキャリア形成を把握し学校の教育活動に活用することについては、卒後 3 年目までは湘南ナースの研修などを通して卒業生の状況を把握できており、今後も湘南ナース研修時や同窓会開催時などに卒業生との交流を図り、就職先や同窓会の協力も得ながら情報を収集し日々の教育に活かしていきたい。今後、卒業生が活躍している姿をホームページで紹介することも検討したい。

V 学生支援 平均 3.4

この項目に対する評価の平均は 3.2～3.8 である。経済的に困窮している学生への即時救済システムが整備されていないことなどが指摘されている。経済的に困窮している学生に対しては奨学金制度を推奨しているものの、現時点では教育機関として即時救済システムはないため、どのような形の救済が求められているのかについて情報を収集し、改善の可能性を検討していく必要がある。また、支援を必要とする学生に対しては、基本クラス担当を相談窓口とし、状況に応じて教員間で情報を共有しながら対応を行っている。本校では、毎年 10 月に 1・2 年生を対象とした実習病院等による奨学金説明会を開催し、2 年生の 12 月には業者による就職ガイダンスを実施している。これらの取り組みは、学生

が奨学金や就職について考えるきっかけとなっている。学生が希望する進路を実現できるよう、今後
も学校の理念に基づいた就職支援を、クラス担当教員と協力して継続していきたい。

さらに学生相談のためのカウンセラーを配置しているが、活用率が高くないことから、今後より一層周
知を進めることで活用促進を図りたい。

VI 教育環境 平均 3.7

この項目に対する評価の平均は 3.7 であった。課題として、グループワークなどに利用できるスペー
スが不足しているという指摘があった。限られた施設の中で学習環境を整備することは、教育上重要
である。また、スペースの整理整頓を進めるよう指導することが教育的であると考えられる。

VII 学生募集 平均 3.5

この項目に対する評価の平均は 3.5 であった。受験生に本校の具体的なメリットが十分伝わってい
ないという指摘があった。少子化が進み学生確保が困難な状況において、本校が選ばれるためには、
明確な強みを打ち出すことが重要であると感じている。

今年度は、指定校 24 校、通信制 9 校の高校を訪問し、進路指導担当教員等に本校の説明を行
った。学校説明会は 8 回実施し、8 月にはオープンキャンパスを開催した。また、ホームページを全
面的にリニューアルし、本校の教育理念や特色、学生生活を分かりやすく発信するなど、広報活動
に力を入れた。しかしながら、今年度の受験者数は昨年度より減少した。

次年度は、入試方法として総合型選抜を導入し、意欲のある学生の確保を目指す。また、インス
タグラムなどを活用して学生生活の様子を配信し、当校の魅力を発信していく。さらに、本校への入学
と同時に通信制大学で単位を取得できるダブルスクールや、特待生制度を開始する。

VIII 財務 平均 3.4

この項目に対する評価の平均は 2.9～3.7 であった。学生数減少に伴う支援体制の継続性への不
安など、学校の財政基盤の安定化に関する指摘があった。中長期的な財政基盤の安定化を図るた
めに、今後も学生確保に向けた取り組みを継続し、経費の節減に努める。また、教職員への予算に
関する理解促進を図っていく。

IX 法令等の遵守 平均 3.7

この項目に対する評価の平均は 3.6～3.9 であった。個人情報保護は、学校全体の信頼性を維持
するために非常に重要であり、個人情報保護に対する意識を高めるための話し合いや啓発の機会を
設けることが重要であると考えられる。

X 社会貢献・地域貢献 平均 3.5

この項目に対する評価の平均は 3.0～3.8 であった。公開講座の充実や地域学校への貢献度向
上が課題として挙げられた。

地域貢献活動は、学校の存在意義を高め、地域社会との連携を深める上で重要である。本校で
は、地域住民参加型の学校祭、地元小学生を対象とした看護体験イベント「学 ing」を毎年開催、地
域のイベント等への参加、ボランティア活動にも積極的に参加している。また、月 1 回の地域清掃活
動も行っており、これらの活動は、今後も継続し、地域の活性化に貢献したい。